



苫小牧市生物多様性地域戦略

～概要版～



地域戦略策定の経緯

苫小牧市では生物多様性保全に関連する施策として、平成30(2018)年に苫小牧市総合計画(第6次基本計画)を策定し、「自然と環境にやさしいまち」を掲げています。また、令和5(2023)年には苫小牧市第4次環境基本計画～第1期ゼロカーボン推進計画～を改定し、「守ろう！豊かな自然とみんなの未来」を掲げ様々な取組を実施しています。本戦略では、苫小牧市の健全な生態系を確保し、自然の恵みを維持回復すること、自然資本を守り活かす

社会経済活動を推進し、本市の魅力を高めるとともに、産業と環境が共生する、持続可能な都市の実現を目指しています。



本編・資料編・施策体系は
こちらから
ご覧いただけます



樽前山



ウトナイ湖



美々川



樽前川

苫小牧市の生物多様性

苫小牧市には、標高1041mの活火山である樽前山を頂点とし、次第に緩やかな裾をひく広大な樽前山麓の森林が広がっています。火砕流台地を流れる河川の溪畔林と峡谷には、樽前ガローがあります。市域の東側に穏やかに流下する安平川、美々川、勇払川の流域には、泥炭湿地が分布しています。ウトナイ湖とその周辺の湿地には、多くの水鳥が訪れ、渡り鳥の休息拠点となっています。勇払原野には、ハスカップが自生しているほか、海岸ではホッキガイなどの海産物が水揚げされ、自然の恵みが苫小牧市の産業を支えています。

苫小牧市でみられる生きもの



チュウビ



イノスミレ
(セナミスミレ)



エゾサンショウウオ



ハスカップ



マツカワ



マガン



オオハクチョウ



ホッキガイ



ヒグマ



ハナショウブ



オオジシギ



サクラマス



A: 樽前山の山地ゾーン

現状

樽前山に源流を持つ河川が複数流れています。高山植物や、高山性の鳥類等にとって重要な生息・生育地です。しかし登山利用の増加による、登山道荒廃や踏圧等のオーバーユースや、コマクサ（国内外来種）が繁茂している課題があります。

行動目標

- 登山マナーの啓発や環境教育の実施によって、利用者が貴重な植生や生きものの価値、登山マナーを理解し、負担の少ない登山利用をしています。
- オーバーユース対策として、国や北海道と連携し、観光利用の分散に取り組みます。
- 外来種を「持ち込まない」意識を定着させるために、コマクサの駆除活動や普及啓発を行います。



A ゾーン

C: 山麓と市街地の中間ゾーン

現状

針葉樹の植林地と二次林が大部分を占め、自然林や溪畔林が分布しているほか、トキサタマップ湿原等の湿原環境もみられます。ヒグマの重要な移動ルートや、クマガイ等の鳥類の生息地となっています。

行動目標

- 条例（苫小牧市自然環境等と再生可能エネルギー発電事業との調和に関する条例）を遵守し、地域に適した再生可能エネルギーの導入を行います。
- トキサタマップ湿原の自然再生に向けた取組を推進します。
- 生きものの生息地として良好な森林環境を維持するために、市民や企業による活動コミュニティを形成し、人の利用が見込まれる二次林では草刈り等の適切な管理を行います。
- 農林業被害の軽減に向けて、エゾシカの適切な個体数管理を実施します。
- 外来種については、駆除体制の整備と生息・生育状況の継続的な監視を行います。



C ゾーン

E: 市街地ゾーン

現状

都市公園や企業緑地が点在する市街地です。緑地や公園には渡り鳥が訪れます。市民の生活の場・物づくり産業の拠点です。

行動目標

- 企業による取組を通じて、サプライチェーン（製品が消費者に届くまでの一連の流れ）全体において地場産品の流通を確保し、市民が環境配慮商品を選択・購入できる環境を整えます。
- 自然共生サイト等をはじめとした、生物多様性の向上に寄与する企業活動を推進します。
- 苫小牧市美術館やウトナイ湖野生鳥獣保護センター等との連携により、専門的な保全活動や自然情報の発信・集約を行います。
- ヒグマやエゾシカの市街地出没を防ぐために、行動圏・行動パターンの調査を行い、河畔林の伐採や下草の適切な管理を実施します。



E ゾーン

B: 樽前山の山麓ゾーン

現状

山地ゾーンからつながる河川が複数流れ、猛禽類や中大型哺乳類の生息地となっています。

行動目標

- 自然災害の軽減に努め、生物多様性に配慮した林業施策を実施します。
- 北海道大学苫小牧研究林との連携を強化し、研究成果の産業への還元や、市民の生涯学習の場として活用します。
- エゾシカの適切な個体数管理を実施し、植生への影響を抑制します。



B ゾーン

D: ウトナイ湖 勇払原野ゾーン

現状

ウトナイ湖や勇払原野等の湿地や湖沼が点在するゾーンです。自生種のカササギや、鳥類などの重要な生息・生育地です。ウトナイ湖では、野鳥観察や自然散策等、自然観光も盛んに行われています。

行動目標

- 勇払川、美々川、安平川等を含む安平川水系の工業用水が適切に管理・利用されるよう、水質や流量の監視を行います。
- 北海道と連携し、美々川再生事業を着実に推進します。
- 勇払原野におけるカササギの生育環境をモニタリングし、生育地の保全に取り組みます。
- 条例（苫小牧市自然環境等と再生可能エネルギー発電事業との調和に関する条例）に基づき、適切な再生可能エネルギーの導入指導を行います。
- カヌー利用や野鳥観察を含むエコツーリズムにおいては、有資格ガイドによる生物多様性に配慮したツアーの実施を推進します。
- ウトナイ湖では、専門スタッフによる観察会やガイドツアーを実施します。
- 自然共生サイト等の生物多様性に寄与する取組をサポートします。



D ゾーン

F: 自然海岸ゾーン

現状

自然海岸の残る沿岸域です。海鳥や森と海を行き来するアオバト等の生息地です。市の主要産業である海産資源の漁場であり、北海道の物流の玄関口でもあります。

行動目標

- 自然を活用した防災（Eco-DRR）を取り入れ、海岸浸食への対策を講じます。
- 市民は自然負荷の少ないマリンスポーツや散歩等の海岸利用を通じて、海の生態系サービスを十分に享受しています。
- ホッキガイをはじめとする水産業において、生物多様性に配慮し、持続可能な漁業を行います。
- 港湾での積荷管理を徹底し、市域および北海道内への外来種の侵入を防止します。



F ゾーン

ゾーニング：各ゾーンの現状と目標

地形、地質、土壌、植生、河川、土地利用を踏まえ、6つのゾーンに市域を分けた結果、ゾーンごとの生物多様性の特徴と人の関わりと課題が鮮明になりました。施策を確実に推進するため、自然環境の違いを考慮しゾーンごとに状態目標と行動目標を決定しました。



2030 年に向けた取組

2050年の将来像の実現に向けて、2030年までに達成すべき目標を5つの基本戦略ごとに掲げました。各基本戦略には、この目標を達成するために重点施策を含む施策を定め、施策ごとに具体的な取組とその進捗を評価する指標を設定しました。

取組の詳細は、右のQRコードからご覧ください。



本編・資料編・施策体系は
こちらから
ご覧いただけます



基本戦略

1

多様な生物が棲むことができる自然環境の維持・再生

生きものが生息・生育する場の保全と再生に取組み、生態系の再生及び質の向上と、緑のネットワークや水環境の保全を図ります。また、人と生きものの双方に適切な環境となるよう、鳥獣被害対策や希少種の保全、外来種対策等の取組を推進します。

重点施策 1 貴重な自然環境を維持・再生し、生態系の多様性を回復・向上させます。

施策 2 ヒグマやエゾシカについてゾーンごとに順応的な管理手法を検討します。

施策 3 外来生物の侵入を防ぎ適切な対処により被害を抑制します。

施策 4 勇弘原野に自生するハスカップを保全し継続的に活用するため、生育環境のモニタリングと生育地の保全に取組みます。

目標

自然環境や土地利用等に応じて、各ゾーンの生物多様性が維持・再生され、その結果、向上・回復しています。

基本戦略

2

様々な施策課題の解決に、山-川-湿原-湖沼-海の生態系を活用

苫小牧市は山・川・湿原・湖沼・海といった多様な生態系や、樽前山（活火山）やウトナイ湖等の特徴的な自然を有しています。この多様な自然を活かした気候変動対策や、自然災害対策等を推進します。また、様々な分野や立場の人が協力し合って、苫小牧市が抱える社会課題を自然の力を活用しながら解決します。

重点施策 1 自然を活用した解決策（NbS）を導入し、生物多様性保全、気候変動緩和、循環型社会の構築をさらに推進します。

施策 2 多様なステークホルダー（利害関係者）が連携することで、社会課題の解決に繋がります。

目標

関係部署や関係機関が連携して、施策課題の解決に生物多様性を活用して取り組んでいます。

基本戦略

3

ネイチャーポジティブを達成する地域産業や市民の暮らしの活性化

工業都市として発展してきた苫小牧市には、自然の恵みを活用した様々な産業が根付いています。近年の生物多様性保全の高まりを受けて、苫小牧市の産業も生物多様性に配慮したビジネスモデルへの転換を積極的に推進します。さらに、苫小牧市特有の豊富な水やハスカップ等の自然資源を活用した新たな産業の創出・育成も推進・支援します。

重点施策 1

生物多様性に配慮したビジネスモデルへの確実な移行と、苫小牧市特有の生物多様性（豊富な水やハスカップ等）を活用した産業を創出・育成します。

施策 2

持続可能な農林水産業への転換を積極的に推進します。

施策 3

生物多様性を活用して二次・三次産業を積極的に支援します。

目標

生物多様性の恵み（ハスカップ等の自然資源や水産資源、農作物、豊富な水等）により、新たなビジネス展開を生みだしています。

基本戦略

4

自然と生きものと共存できる暮らしへの転換、潤いある生活と文化の継承

自然の恵みを持続可能なかたちで永続的に享受するためには、正しく理解し具体的なアクションを起こすことが重要です。家庭や学校、職場、地域等のあらゆる場において、必要な情報が得られるように環境教育を強化します。また、樽前山の麓に息づく自然と共に育んできた文化を継承し、市民生活の質を向上させるための、具体的な取組を推進します。

重点施策 1

環境教育を強化し、生物多様性に関わるユース世代の活躍を支援します。

施策 2

生物多様性を活用し、誰もがウェルビーイング（身体的に良好だけでなく、心身ともに満たされた状態）を感じられるまちを実現します。

施策 3

樽前山から海へと続く、苫小牧ならではの郷土の風景、文化を維持します。

施策 4

野生動物と人との軋轢を解消するため、具体的な対策を検討します。

目標

全ての人が自然再興に向けて行動変容をし、あらゆる自然の恵みを活用して豊かな生活を送っています。

基本戦略

5

自然・生物情報を活用するための基盤整備

苫小牧市の生物多様性保全に効果的な対策を行うためには、正確な自然環境の情報収集と分析、共有、活用が不可欠です。また、産学官民が一体となり、課題可決に取組む必要があります。苫小牧市は協働による仕組みづくりを推進し、周辺地域も含めて広範囲の課題解決に向けて全力で取組みます。

重点施策 1

科学的なデータや自然情報の蓄積と共有、情報交換の場を整備、市域全体の生態系ネットワークを見える化（地図化）し、基本戦略①②③④を円滑にかつ具体的に進めます。

施策 2

生物多様性の向上に資する取組を支援する制度設計を推進します。

施策 3

北海道、周辺市町村、国との連携を強化し、産学官民の ALL 苫小牧で、生物多様性の保全対策を推進します。

目標

自然情報データベースを活用して保全対策や新たな施策が実行されています。

2050 年

苫小牧市の将来像

自然と産業が調和し、勇払原野の恵みを未来へ紡ぐまち 苫小牧



2050年の将来像を達成するために、

今、行動に移すべきこと

ネイチャーポジティブ社会の実現に向けて
一人一人が消費・選択行動を見直し行動に移している



民間企業など事業者



- ・サプライチェーンにおける生物多様性の保全と環境負荷の低減、責任ある原材料調達
- ・事業活動におけるネイチャーポジティブの実現
- ・事業地における生物多様性に配慮した取組み（工場緑地の確保、水源の責任ある利用、脱炭素）
- ・社員の環境意識の向上と地域への貢献活動・情報発信の推進
- ・地域社会への積極的ななかかわりによる社会貢献・生物多様性の恵みの還元

大学・研究機関・環境保全団体



- ・地域の自然情報、データの収集と蓄積
- ・自然体験や学びの場の提供
- ・環境保全に取組む人材の育成と活動の場の提供
- ・研究活動における生物多様性の危機に備えた基盤整備
- ・環境保全、生物多様性に関する質の高い教育の提供

国・北海道

- ・生物多様性国家戦略の推進
- ・北海道生物多様性保全計画の推進
- ・法律や条例の整備
- ・地方自治体と協力して環境行政を推進

来訪者



- ・訪問地の自然や生態系に配慮し、土地の慣習やマナーを守った観光利用の心がけ
- ・積極的な地場産品の選択による地域応援
- ・エコツアーの積極的な利用による、生物多様性に配慮した自然観光産業のサポート

市民



- ・生物多様性とその恵みの正しい認識
- ・自然環境や生物多様性に配慮した消費や観光などのエシカル消費の選択
- ・自然資源を活かした伝統や文化の継承
- ・生物多様性に関わる取組への積極的な参画

苫小牧市



- ・生物多様性を取り入れた真に豊かなまちづくりの推進
- ・行動計画に基づく良好な自然環境の確保と維持・拡充
- ・条例や認定制度を活用した環境保全活動の支援拡充
- ・あらゆる機関とのネットワーク強化による生物多様性を活用した社会課題の解決
- ・データの蓄積と公平な分配と利益の還元

苫小牧市生物多様性地域戦略に関する
お問い合わせなどは、下記までお寄せください

苫小牧市環境衛生部環境生活課
〒053-8722 苫小牧市旭町4丁目5番6号
TEL 0144-32-6331

戦略の計画期間と推進体制

本戦略は、2050年を目標年とし、2030年に中間の見直しを行います。
個々の取組は、年に1回程度、指標を基に進捗状況を確認・評価して確実に取組を推進します。